

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立玉造幼稚園

令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園は、広い敷地の中に、多種類の木々や、築山、川、芝生がある起伏に富んだ園庭があり、自然環境に恵まれている。その中で、子どもたちは思う存分体を動かして遊び、園生活を楽しんでいる。しかし、広い場での多岐にわたる遊びにおいて安全への意識が不十分なところがある。そこで、全教職員が共通理解し、子どもたちと話し合いながら遊びのルールづくりを進めるなど、安全への意識を高めていきたいと考えた。
- 園生活に入るまでの子どもたちは、個人差はあるが、限られた人との関わりの中で育ってきている。園生活が始まり、今までに関わったことのない人に出会うと、どうしてよいかわからず戸惑っている姿が見られる。まずは、幼稚園生活を安心して過ごせるように、互いにまると受け入れられる人間関係を築きたいと考えた。そして、自分の思いを出したり、相手の思いに耳を傾けたりしながら、教え合ったり助け合ったりする子どもに育てていきたい。
- 本園の子どもたちは、大人と話をすることは好むが、いざという場面ではっきりと意思を出しにくい姿があるように感じる。大人が子どもの思いを先にくみとってしまわないように保護者に啓発するとともに、日々の様々な活動を通して、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する子どもを育みたい。
- 子どもたちは、身の回りの清潔に関する基本的な生活習慣は身に付けている。しかし、自分に健康についてはあまり関心がないように思う。園では、子どもたちが自分の健康に興味や関心をもち、自ら必要性を感じたり友達と一緒にやってみようという意欲をもったりしながら生活習慣を身に付けられるよう、家庭と連携しながら保健指導に取り組みたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、お子さまの安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。
- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまると受け入れ、助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。
- 保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、子どもが自分の健康に興味や関心をもつように努めている」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教職員が積極的に研修に取り組み、自身の資質向上を図る。
- 保護者向けの年度末のアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもの育ちを地域や保護者に発信しようと努めている」の項目について、肯定的な回答の割合を毎年80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ、助け合う気持ちをもちようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、『体の健康』や『食育』について指導している」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和6年度末の教員向けアンケート調査で、「研修したことが、自身の資質向上につながった」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもの育ちを地域や保護者に発信しようと努めている」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

- ・安全な生活に必要な習慣は、子どもたちの遊びが変化していくに伴い、定期的に話し合いをし、子どもたち自身が約束を考えることで、より守ろうとしたり、友達に声をかけたりするようになった。また、園庭開放中の遊び方については、保護者への継続した啓発が必要であり、根気強く声をかけることで、教職員と保護者の双方から、子どもたちに安全を意識する言葉かけをするようになり、子どもたちが安全に遊べるようになってきていると感じる。
- ・様々な子どもが在籍する中で、教職員が受け止めたり、子ども同士が互いに受け止め合えるような言葉かけや働きかけをしたりすることが、子どもにとっては見本となり、助け合ったり、受け入れ合ったりする姿が見られるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・1学期から、子どもたちが自分で考えて工夫できるような環境の見直しを行ったことで、進んで様々な遊びを楽しむようになり、生活全般において、自信をもって過ごす子どもが増えた。友達や年長児からの刺激を受け、遊びを発展させたり、少し難しいことに挑戦したりする姿が多く、場面で見られ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に感じて過ごすことができた。
- ・子どもの実態に合わせた保健指導を毎月実施することで、自身の健康に関心をもつ子どもが増えた。また、今年度から給食が始まり、定期的に幼児に指導したり、その様子を保護者にも伝達したりすることで、家庭での食への関心も高まった。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・教員が増えたことにより園内研修会が充実し、また研究部のテーマで指導要請を実施したことにより、教員が自分の保育を振り返ったり、多面的に子どもをとらえたりすることができ、資質向上につながった。
- ・ホームページの更新だけでなく、保育参観や降園時の保育内容の伝達などを通して、教職員一人一人が、保護者に伝えたいことを考え言語化することで、保育のねらいが明確化され、教員自身の資質向上につながった。また、幼稚園教育の内容や子どもの育ちを保護者に伝えることで、園と保護者が共に手を携えて子どもの育ちを支えていくことの大切さを啓発することにもつながっている。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、お子さまの安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ、助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 安全な生活に必要な習慣が身につくような指導を工夫する。 ----- 指標 ・安全な生活に必要なきまりを子どもたちと話し合ってつくり、学期に1回見直しをする。	A
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自分の思いを伝え、相手の思いを聞こうとする子どもの育成に努める ----- 指標 ・自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりする機会を週2回以上つくる。 ・担任同士で子ども1人につき、月1回以上振り返る機会をつくる。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
年度目標の達成状況 ・令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、＜園庭での遊び方＞や＜廊下では歩く＞などのきまりを守ろうとするなど、お子さまの安全への意識が高まってきましたか」の項目について、肯定的な回答の割合は92.7%であった ・令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いにまるごと受け入れ、助け合う気持ちをもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合は89%であった。 取組内容① ・5歳児は、1学期当初に園庭での遊び方について話し合い、安全に遊ぶために必要なきまりをつくり、子ども同士で声をかけ合ってきたきまりを守ろうとする姿が見られるようになった。そのきまりを4歳児、3歳児もクラスごとに確認し、幼稚園内での共通理解を図った。また、子どもたちがつくれたきまりをわかりやすくまとめた園庭の安全マップを作成して保護者に配付し、園庭開放中も安全に遊べるように共通理解を図った。 ・4歳児では、1学期、廊下やテラスを走っている場面が多かったため、クラスで話をし、歩こうという意識は高まってきた。2学期、園庭でボール遊びをしていた時に、たまたまガラ

スが割れてしまったことがあった。以前からボールの遊び方について教師から声をかけてはいたが、この件をきっかけに改めてクラスで話し合い、どうすれば安全に園庭で遊べるのかを再確認することができ、意識が高まった。

- ・3歳児では、7月、トイレのドアで手を挟んだり、トイレの床に寝転がったりする姿があったので、トイレの安全な使い方についてクラスで考えたことで、トイレの使い方を再確認することができた。園内で安全に過ごすことができるように、言葉かけや振り返りをする機会を継続的に行ったことで3学期になり、園庭や幼稚園内で過ごすためのきまりを理解し守ろうとする姿が増えた。活動前や好きな遊びの途中で教師が幼稚園のきまりを伝え、友達と伝えあったり確かめあったりする姿も見られる。
- ・どのクラスでも、幼稚園で過ごす中で危険な場面があれば、その都度教師が言葉かけをしたり、クラスで振り返りを行ったりして、学期に1回以上見直す機会をもった。そのため、幼稚園での約束を思い出し守ろうとする姿が見られるようになってきている。
- ・3学期に入り、幼稚園内で安全に過ごすためのきまりを守ろうとする姿が全学年通してみられるようになった。急ぐ気持ちがあり、廊下を走ってしまったり、園庭で危ない遊び方をし、しまったりする子どもも、友達や教師の声掛けがあるときまりを思い出し、守ろうとする姿があるため、安全に必要な習慣が身についてきている。
- ・保護者の方にも降園時やホームページなどで、園での安全への取組や子どもたちの様子を伝え、共通理解を図っている。

取組内容②

- ・5歳児では、遊びの後や降園時などの機会を捉え、気付いたことや発見したことを共有できるよう週3日以上話し合いの場を設けた。1学期は、子どもの思いや考えを伝えられるように、言葉を補ったり仲介をしたりしながら子どもが互いに知らせ合うことができるようにした。2学期には、振り返りの中で話したことを教師が仲介しなくても子ども同士で会話を進めることができた。教師が継続して互いを認め合い、思いを伝えることができるような保育を行ってきたので、普段の遊びでも、友達を認めたり励ましたりする姿が多く見られた。
- ・4歳児では、振り返りの時間を週3回以上設けることができた。教師が子どもの嬉しい気持ちや悲しい気持ちなど様々な思いを受け止め、友達への伝え方を知らせたり、一緒に考えたりした。4月当初は、子どもが自分の思いを言葉にできずトラブルになった際、泣いたり、怒ったりすることが多かったが、友達への伝え方を一緒に考えることで、少しずつ言葉で伝えることができるようになった。1学期の振り返りでは、人前で話す場面で緊張したり、戸惑ったりする子どもが多くいたが、繰り返し話す機会をつくることで、自分の思いを言葉で伝えようとする姿が多くなっていった。友達の話に耳を傾ける姿も見られようになり、クラスでその日の楽しかったことや嬉しかったことを共有する時間にすることができた。
- ・3歳児では、教師が子どもの思いを受け止め、丁寧に話を聞くことで安心感をもてるようにした。少しずつ子どもが思っていることや感じたことを友達に伝えられるように、教師がわかりやすく代弁したことで、友達に思いが伝わる喜びを感じるようになってきている。また、友達の前で話す機会を繰り返しつくることで、楽しかったことや自分の思いを自分なりの言葉で伝えようとし、友達の話も聞こうとするようになってきている。
- ・教師が子どもの実態を共通理解することで、保育内容に生かし環境の再構築を行うことができた。こども園になったことで2号認定児のことが多くはなるが、複数の教師が長時間子どもとかかわようになり、様々な視点で子どもの姿を見て、多面的に子どもを捉える視点につながっている。

次年度への改善点

取組内容①

- ・子どもたちが安全に必要な習慣を身につけ、進んできまりを守る意識を高めていけるよう、園でのきまりを思い出す機会を設けたりしていく必要がある。

取組内容②

- ・各学年で幼児の実態に合わせて、自分の思いを話したり、相手の思いを聞いたりする機会を設けることができた。次年度も丁寧に子どもの思いを見取りながら保育ができるようにしたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、『体の健康』や『食育』について指導している」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 子どもが試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを感じられるような環境構成や教育的意図をもった働きかけを工夫する。	A
指標 ・子どもが試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを感じられるような環境構成や教育的意図をもった働きかけについて、月1回以上協議する。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 親子で「体の健康」や「食育」について興味や関心をもてるような、保健指導や保護者啓発を行う。	A
指標 ・年11回以上保健指導をし、その様子を掲示物で保護者に伝える。 ・「食育」や「給食について」を掲載したほけんだよりを年12回発行する。 ・学期に1回以上、食育に関する保健指導をする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
年度目標の達成状況 ・令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「お子様は、年度当初よりも、様々な活動の中で、自分の思いや考えを表現し、試したり、工夫したりするようになりましたか」の項目について、肯定的な回答の割合が97.2%であった。 ・令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、『体の健康』や『食育』について指導している」の項目について、肯定的な回答の割合が98.2%であった。 取組内容① ・水遊びの時期には、花によって出る色が違うことや、濃い色水のつくり方など、友達と見合ったり、教え合ったりしながら色水をつくることを楽しんでいた。また、水鉄砲の遊びでは、5歳児は水にあたっても壊れない素材は何かを考え、的づくりを楽しんだ。 ・運動会では、5歳児がチャレンジ遊びに挑戦し、繰り返し遊んだ。広い園庭で同じ時間帯で遊んだことで、5歳児の姿に刺激を受け、運動会後にホッピングや一輪車に挑戦する4歳児の姿も見られるようになった。3学期になると、その様子をみた3歳児もホッピングや一本歯下駄、大縄跳びに興味や関心を示し、遊ぶ姿もあった。 ・展覧会では、製作において、各家庭から素材を集めて子どもと一緒に素材を分類分けし

たことで、素材ごとの特徴に気付いたり、素材を生かして工夫してつくったりする姿があった。また、できたものを飾ったり友達と見せ合う機会を設けて他児から刺激を受けたことで、より試したり工夫したりする姿につながった。

- ・生活発表会の劇遊びでは、友達と一緒にセリフを考えたり、動きや表情を工夫したりできるように話し合い等の場を設けた。子どもたち自身が考えたり工夫したりしてつくったことで、より意欲的に劇遊びに参加する子どもの姿が見られた。また、他クラスの表現遊びの様子を見たり、自分たちの姿を見てもらったりする機会をつくることで、互いに刺激を受け、自分たちの表現遊びにも生かそうとしていた。
- ・毎月の職員会議において、各行事の打ち合わせをする際、教師同士がねらいや環境構成について共通理解を図ったり、話し合ったりした。運動会・展覧会・生活発表会に関しては、それぞれ2回以上の打ち合わせの場を設けた。また、毎週末に週案の話し合いを各クラスで行い、子どもが試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを感じられるような環境構成や教育的意図をもった働きかけを細かく話し合った。今年度から学年の担任が4人いることを生かして、多面的に子どもたちへの働きかけを考えることができた。

取組内容②

- ・4月には「手洗い・うがい」、5月には「食べ物の働き」、6月には「歯みがき指導」と「早寝・早起き」、7月には「熱中症予防」、9月には「正しい靴の履き方」、10月は「よく噛んで食べよう」、11月は「咳エチケットと鼻のかみ方」、12月は「あいうべ体操」、1月には「お節料理について」、2月には「正しい姿勢」、3月には「箸の使い方」についての保健指導を行った。担任に協力を仰いで、毎日「あいうべ体操」の歌をクラスで歌うなど、保健指導後にも継続的な指導になるようにした。子どもたちが指導の際に歌った手洗いの歌を自発的に歌いながら手を洗ったり、あいうべ体操の歌を歌ったりしている様子が見られた。毎月、保健指導の様子を写真を用いたポスターにして掲示し、登園時や降園時に保護者に見てもらえるようにしたり、HPに保健指導の様子を掲載したりした。登園の際に親子でポスターを見ながら「こんなこと教えてもらったよ」と親子で話している様子が見られた。
- ・毎月、ほけんだよりに「食育」に関する内容を掲載したり、「給食について」のHPをあげて、給食の様子を見ることができるようにした。また、1学期終了時には早寝早起きと歯磨きに関しての「なつのけんこうかれんだー」、2学期終了時には早寝早起き・3色食品栄養・歯磨きに関しての「けんこうかれんだー」を作成して配付し、家庭でも「体の健康」について関心をもてるようにした。
- ・学期に1回以上は食育に関する保健指導を行った。また、給食の時間にその日の給食の食材や栄養について話しに行ったり、栄養に関するクイズを出したり、食育に関する掲示物を掲示したりした。また、2学期末の保護者会では、保健指導だけでなく、野菜の栽培や果物の収穫、餅つきなど、園で取り組んでいる食育の様子をパワーポイントで保護者に伝えた。給食の時間にいろいろな食べ物を食べてみようとする姿や、完食を目指す子どもが増え、年度当初に比べて残食率が減った。

次年度への改善点

取組内容①

- ・引き続き、教職員で密に話し合いをし、子どもが試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを感じられるような保育内容や環境構成を工夫する。また、広い園庭を生かし、異年齢が互いに遊びの様子を見ることによっていろいろな遊びが広がるようにしていく。

取組内容②

- ・引き続き、食育に関する保健指導を実施したり、給食の際に食育に関する話をしに行ったりすることで、子どもたち自身が食に関して興味関心をもてるようにしていく。また、今後も保健指導の様子をHPや掲示物で知らせ保護者啓発につなげていく。

大阪市立玉造幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○令和6年度末の教員向けアンケート調査で、「研修したことが、自身の資質向上につながった」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもの育ちを地域や保護者に発信しようとしている」との項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員同士が互いに学び合い、向上心をもって日々の保育に取り組めるようにする。	A
指標 ・園内研究保育を、12回以上実施する。 ・就学前教育カリキュラムを活用した週案、日案を作成し、保育に取り入れる。 ・1人3回以上記録を書き、その都度協議する。	
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】 地域や保護者と連携した教育内容を計画するとともに、就学前教育の周知方法を工夫する。	A
指標 ・幼稚園ホームページを教員1人当たり月1回以上更新し、幼稚園の様子や子どもの育ちを発信する。 ・学年だより又は学級だよりを月1回以上作成する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
年度目標の達成状況 ・令和6年度末の教員向けアンケート調査で、「研修したことが、自身の資質向上につながった」の肯定的な回答の割合が100%であった。 ・令和6年度末の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、園内の活動の様子や子どもの育ちを地域や保護者に発信しようとしている」との項目について、肯定的な回答の割合が98.2%であった。 取組内容① ・園内研究保育を、担任が一人一回以上計画し、計12回以上実施することができた。園内研究保育後の討議会を通して、互いの保育を客観的に見て話し合うことが自身の日頃の保育の振り返りにもなった。今年度から認定こども園になったことで教員の数が増え、勤務がシフト制になったため、園内研修会に毎回全員が参加することは難しかったが、各クラスの担任どちらか一人が参加し、その後の反省会も含めた内容を伝えるようにしたことで、参加していない教師の学びにもつなげることができた。 ・指導要請では、運動会後の遊びを見ていただき、保育の内容を振り返ることができた。子どもが主体的に活動したいと思う遊びは何かを考えることや指導案を作成するときに意識すること、今後の見通しをもつことの大切さを改めて学ぶことができた。

- ・就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し保育に取り入れ、知・徳・体をバランスよく育めるように努めた。
- ・様々な研修会に進んで参加し、学んだことや資料を回覧で周知し、教員全体の学びにつなげた。
- ・5月・7月・9月に実践記録を書いた。担任同士で話し合ったり、全体で協議する場を設けたりして、記録の書き方や教師の働きかけについて学んだ。また、他園の研究保育に参加し、学んだことを口頭や回覧で周知し、教員全体の学びにつなげた。さらに、各クラスに担任が2人いるため、意見を出し合いながら、日々の保育に取り入れた。クラスの保育だけでなく、2号認定児の保育を担当がシフト制で行っているため、いろいろな教師の声掛けや保育を見ることができ、学びになった。
- ・生活発表会に向けての活動では、クラス間で積極的に声をかけ合い、劇遊びを見合ったり、一緒に遊んだりしたことで、いろいろな教師の保育を見て、保育の進め方や子どもとの関わり方、声かけなどを学んだ。

取組内容②

- ・幼稚園ホームページを中心に子どもたちの遊びの様子や活動を更新することができている。今年度より教職員数も増えたため、それぞれの視点からクラスでの活動や季節ごとの園内の自然、園全体の様子を発信した。教員1人につき月1回以上の学校日記での発信ができていたため、継続していきたい。
- ・今年度からこども園になり、降園時に担任が保護者と直接話せないことが増えたが、保育中の活動をホワイトボードに記入しクラスごとに掲示したり、連絡事項については2号認定児用の連絡掲示を活用したりして、降園時に保護者に保育中の様子を伝えられるようにした。
- ・学年だよりは毎月末に作成し掲示している。11月以降は学年だよりの中に、クラスの取り組みを記載した。遊びの展開や子どもの育ち、その中での教師の教育的意図をもった働きかけなど、保護者に伝わりやすいよう意識して作成を行った。

次年度への改善点

取組内容①

- ・次年度以降も研修を積極的に行い、教員一人一人が自ら学ぶ意識をもって保育に取り組む。

取組内容②

- ・ホームページを更新した際は、職員朝礼にて共有し降園連絡で伝えるとともに、玄関先にカレンダーを置き、更新日に印をつけることで保護者に周知する。
- ・保護者への発信については、今後もクラスや学年での様子や育ちを分かりやすく、こまめに伝えることを引き続き行っていく。
- ・学年だよりについては、掲示の際に降園連絡にて、記載の内容を簡単に伝えるとともに、HPに掲載していることや玄関に今までの月のものを掲示していることを知らせる。